

在亜日本商工会議所上野至事務局長の依頼で、片岡物産ブエノスアイレス事務所代表（当時）中田龍之助氏が纏められた一代記「花便り」（前任の大倉商事時代を主に）、並びに昨年追加執筆された「花便りⅡ」を2019年1月、2月で連載いたします。

まず今回は2005年3月に在亜日本商工会議所会報に寄稿「花便り」をご堪能願います。

「花便り」

中田龍之助

在亜日本商工会議所事務局 御中
事務局長 上野 至 様

2005/3/20

「花便り」

2月中旬に事務局長の上野さんから久しぶりにメールを頂戴し、32号会報に出稿依頼を受けた時は、正直な処、暫しどうしようかと考えました。しかし、小生がブエノスに在職した4年9ヶ月(11/1995-7/2000)を何とか恙無く無事に過ごせたのは、矢張り偏に「ご縁→人々との繋がり」の御蔭と思ひ返し、恥かしながら拙文を認める事に致しました。

何れに致しましても、在亜国中は皆様方に公私に涉り、大変お世話・ご指導・ご教示・ご支援に預かり誠に有難う御座いました。遅く成りましたが、改めて御礼申し上げます。

さて、昨今は地球温暖化の悪影響が世界の彼方此方で、連続的に顕著化して来ており、又、其れに加えて昨年末にはインドネシアで巨大地震・津波が発生し、被害も悲惨で甚大です。時系列的に捕らえると、何か人類が俄に世紀末に向かって加速している様に感じられます。しかし、一方では若干ですが抑止の力が動き始めています。其れは亜国も成立までの過程で足跡を残した「京都議定書」の事です。米国・中国・発展途上国は未だ加盟していないので、不完全では有りますが、恰も小さな光が燈った感です。地球規模で人類の知恵が初めて動き、CO2の発生削減・抑制を図り、其れが地球の延命に繋がる事に期待を持ちたいものです。

2000年夏に亜国から帰国して、早4年半強がアット言う間に経ち、チョット先を見たらサラリーマンの一応の上がり（60歳定年）迄、残す処、一年を切りました。未だ色々と振り返るには早いかも知れませんが、少しだけ、触りをお話しする事にいたしましょう。

学生時代から花の海外生活を夢見て商社に入り、初めての海外辞令（米国大倉商事ヒューストン事務所勤務）を28歳で貰った時の感動は今でも鮮明に心に焼き付いています。其の時代は重厚長大が真つ盛りで、日本製の鉄鋼製品を主にサザンベルト（中南部）地域で売り歩くセールスマンでした。客の南部訛に日頃から付き合う内に、自然と小生の米語も俄かに標

準語（主にカリフォルニア地域）から南部のズーザー弁に溶け込んで行きました。有る時、商用で東部に出張し、客を訪問し話し始めた処、客が笑いながら仲間に「アッこのジャップ（其の当時は今と違い一般の米国人は日本人に蔑視的な呼称を使っていた）テキサス弁を話すよ！」と言いました。しかし、「ジャップの訛が珍しい」が中を取り持ち、其の御蔭で商売が取れ、その後も継続出来ました。何が幸いするか分かりませんね！サザンベルト・エリアは広大な販売地域でしたので、何時も飛行機＋レンタカーの組合せで行動し、殆ど毎週の様に一泊二日で各地を飛び回りました。今では心身共にガタが来て無理ですが、矢張り若くて元気だったので続けられたのでしょう。若さは特権で馬力です！処女地での販売 TOOL として YELLOW PAGE（商業別電話帳）を必ず参考にしました。これは他社の先輩駐在員から教わりました。特に、後ろのページには其の地域・町の歴史や遺跡、等、中々興味を引く記事が掲載されていたので、安モーターで寝る前にビールを飲みながら良く読み、明日の訪問ターゲットを定めました。後日、事務所の秘書に頼み、担当地域の主要都市の YELLOW PAGE を 50 冊以上取り揃え効率よく仕事が出来ました。鉄の仕事を通じて、米国人から教わった事は多々有りましたが、矢張り生涯の糧として、ルイジアナ州アボンデール・シップヤードの定年前の購買担当副社長 MR. ED LANDRY の「売り手は買い手を必要とし、又、買い手は売り手を必要とする。お互い、良い売り手・買い手を持つことは商売の肝で、一番大事な事。お前が将来、買い手に回った時に、俺の言った事の重みが増すよ！」は其の後に、何時も小生の仕事の中に生きて来ました。

初回の米国勤務以降もリピートの希望を持っていましたが、何時何処どの歯車が狂ったのか？定かでは有りませんが、2 回目は北米では無く、図らずも「北と南の一字が入れ替わり」南米コロンビア国首都ボゴタと成りました。ヒューストン駐在 5 年間の最後の 2 年間に、仕事の都合でメキシコ市に 20 数回出張した事が運の付きだった様です。「中田は良くメキシコに行っているから、そこそこスペイン語が行けるんだろ・・・本当処はメキシコ市の客との会話は略米語で遣っていたのに！」と会社に思い込まれてしまい、南米とのお付き合いが始まりました。幸いな事に家族も同行して呉れ、腰も据わったので、特に苦勞せずに日常のスペイン語をマスター出来ました。緑の魔境と言われる様に、パナマ 又、ブラジルのアマゾンの隣接地域は未だに未踏の所が多々有ると聞いています。又、世界有数のコカインの主生産地で、非政府軍・テロリスト・マフィアの活動の原資と成っています。帰国後 20 年経ちましたが、国・社会の基本構造は殆ど変わっていないと聞かされ心が沈みます。日常の生活は緊張感が有りました。「命の値段が安いので、人との諍いは起こさない様に、恨みを買わない様に」と日本大使館の警察庁出身の書記官殿からは良く言われました。毎朝の会社への車路も同じ道で無く、必ず 2-3 通りの選択肢を組み合わせて通退勤していました。冗談で無く、通勤途中に、地べたに転がっている死体を 2 度も見ました。其の後、何度も、何人もの邦人が誘拐拉致され、不幸な事が重なりました。其の結果、多くの日本企業の店が閉鎖・縮小へ追い込まれました。しかし、皮膚感覚で、「危機管理」を家族共々体

得出来、其れがその後も大いに役立っています。又、米国時代の様に自由奔放に何時何処へで行き来出来る生活では無かったが、其の分、駐在仲間・特定のコロンビア人との接触・お付き合いは深く親密に成りました。この事が小生のアミゴとお付き合いの始まりです。米国時代は駐在員も少なく、又、兎に角、四六時中忙しく飛び回っていたので、週末に家族に付き合っって買い物に回ると、もう時間が有りませんでした。しかし、ボゴタ時代は違っていました。生活・ビジネスの回るスピードも2段階位ギアをシフトダウンして、周りの景色の変わり行く様を実感しながら駒を進める事が出来ました。会社の規定（高地休暇）を活用して、2700Mの高地ボゴタから時々、下界（隣国パナマ、若しくは国内低地）に2泊3日で降りて、肺に十分に酸素を吸い込ませると、翌日からは俄かに心身に活気が漲ります。今はマラソンランナーが高地でトレーニングを行い赤血球を増やして、下界でのレースに備えるのは日常茶飯事です、其の頃は有りませんでした。しかし、自分の実体験でも其の効果を実証出来ます。高地での生活は酸素を低地以上に消費するので、体内のエネルギー消費も増加します。よって、米国で見慣れた体型は極稀で、殆どの人が痩せてスマートで有った印象でした。

1985 夏に帰国した時には、流石の重厚長大にも翳りが出て来て、1987 に鉄鋼部隊の社内リストラで木材課に移りました。今迄の鉄鋼製品の売り手から、今度は原木・木材製品の買い手に立場が逆転しました。主に出向いたのはカナダ・米国ですが、東南アジアも良く行きました。しかし、一番印象深いのは矢張り、厳冬(-25℃~-30℃)中国東北地方(旧満州)での広葉樹(ナラ・タモが主)の原木・製材買い付けでした。北海道の某大手木材問屋のプロ(原木・製材鑑定師)に同行しての出張です。木が光合成を活発にして生長している時には幹に水分が多く、伐採しても直ぐ腐り使い物に成りません。因って、伐採は必ず落葉して光合成が完全に止まる冬の時期しか有りません。伐採した原木は路の無い凍結した山の斜面を滑り下ろして、下の山村の広場に数段に野積みされます。彼方此方に点在する広場をチェーンを履いたごつい車で10数箇所、原木の検品に走り回る訳です。現場に着くと、プロは懐から行き成り水の入った霧吹き(家庭でワイシャツの糊付けに使うプラスチック容器)を取り出し、木の小口(切り口)に満遍なく霧を吹き付けます。程無くすると乾燥して今迄見えなかった木の年輪が俄に浮出て来るでは有りませんか。其の年輪の具合を数秒間見ただけで、プロは木の良し悪しを即決し、自社マークの入った刻印を木口の年輪に打ち込む訳です。其れは丁度、魚河岸で鮪の仲買人が尻尾を切り落とされた鮪の小口を見て、其の鮪全体の脂の乗りを即決し値段を決めるのと正に同様です。高が丸太一本と馬鹿に出来ません。数百万円の値段が付く事は稀では有りません。しかし、矢張り其処は人の子、良いと思って買った物を日本に持ち帰り、加工を始めると中に素や洞が入り、全く使えない物も多々有ります。正に博打です!

昔から其の土地が育む酒は何処にでも必ず有ります。満州の其れは、矢張り何と言っても白

酒（パイチュウ）です。高粱で作った匂いの強い蒸留酒で、火の付いたマッチを近づけると青白い色で直ぐに燃える程の高アルコール酒です。これを小さなショットグラス、又は杯で、蒸した鳥の足先や犬の肉（犬の肉「ケコギ」は朝鮮族の最高のご馳走です）を肴に、ストレートで飲みます。宴席に招待され、乾杯・乾杯を繰り返すと直ぐに足元がふら付き始めます。しかし、泥酔の心配はご無用です。用足しに外で小雉を撃つ間も無く、厳冬の外気でシャッキトする次第です。10日間程の出張から家に帰ると、女房から「直ぐに全部着替えて、直ぐにお風呂に入って」が何時もの第一声でした。地元・白酒の独特の匂いは骨にまで染み込む様です。厳冬・白酒・食べ物のせいで、10数名の課員から厳冬の旧満州出張に手が挙がる事は無く、とうとう4年間の木材時代で、全部で7回行く羽目に成りました。商売相手の朝鮮族（ロシア・北朝鮮と国境を接する地域には約150万人の朝鮮族中国人がいます。地元での普段の言葉は朝鮮語ですが、仕事では皆、中国語を話します。）と通訳を介しての話は何時も面白く、興味が尽きませんでした。しかし、後日談ですが、其の後に、中国残留孤児問題がマス・メディア、小説、テレビドラマで取上げられ、荒涼とした満州の大地が映し出されるたびに、其れらの興味が大幅に変わって来ました。

守護神の関東軍が密かに南方回帰し、27万人の在満州日本民間人は取残され見捨てられました。人々の逃避行の悲惨さは到底筆舌では尽くせず、10万人以上が犠牲に成ったと聞かされています。自分自身が歩き回った地名と重なり、沈痛な寂寥感に暫し襲われました。

この朝鮮族の人々との交流が災いしたかどうか定かでは有りませんが、横滑りで3度目は隣国・韓国ソウルの駐在と相成った訳です。色々と抵抗をしましたが、お袋に、「お前がお腹に入ったのは朝鮮の清津（チョンジン）で、終戦前に命殻柄大きなお腹で、幼い姉さん達の手を引いて日本に逃げ帰ったのだよ。ご縁の有る処で、仕事を出来るのは有難いじゃないか。」の一言で、呆気なく陥落した次第です。

子供が高校生と中学生に成っていたので、止む無くソウルには初めての単身赴任で行きました。3年半の駐在生活でした。飛行機で僅か2時間強の距離だったので、金曜日の夕方に事務所を出れば、同夜10時頃には横浜の家に帰れました。此処でも、メインは日本の鉄鋼製品の販売で、特に財閥系会社への造船用鋼板、家電製品用の表面処理鋼板やパイプ用の帯鋼板が店のメイン・ビジネスでした。しかし、此処でも、面白いアイテムにのめり込みました。英語の略称でS.L.P.でフルネームはSQUID LIVER PASTEです。何を隠そう、烏賊のゴロ（内蔵）の濃縮ペーストです。東京の水産課から初めての問い合わせが来た時、皆目理解出来ませんでした。しかし、担当者が出張に来て、現物サンプルを見せられ、其れが養殖エビに極めて大事な成長の「味の素」で有る事を聞かされ初めて興奮しました。

韓国の東海岸は烏賊の産地でスルメの加工が非常に盛んです。其の加工の副産物として、ゴロを彼方此方の加工工場から集めて、小型トラック一台分程の大きさの回転式ドラムに高温・高圧の蒸気を吹き入れて、徐々に濃縮してペースト状にします。出来上がったペース

トをドラム缶に詰めるのです。エビ飼料業者はドラム缶からペーストを取り出し、其れに水を加えて伸ばし、大豆の粉に金平糖を塗す様に吹き付け、乾燥して出来上がりです。一番小さな物は縫い針の穴位ですが、エビの成長に比例して徐々に径が大きくなり、10通り程の種類が有ります。何故にエビの成長に良いのか、科学的な根拠は未だハッキリしていないそうです。しかし、エビがこれを食べると脱皮のスピードが上がり、成長が早く成るので、エビ養殖業者にとって魔法の粉と言う訳です。あれから10数年経ちましたが、未だにSLP工場の匂いは脳髄に染込んでいます。例え様の無い、世界一強烈な臭い匂いです。因って、其の当時、工場を中心にして、半径2KMの円の中には家屋は一軒も有りませんでした。常時、其の匂いを嗅ぎ続ければ、キット臭覚を失うこと請け合いです。

「臭い物には蓋をしろ」ですが、「本物の臭さは」ナポレオンでは有りませんが、矢張り記憶に残ります。

さて、今日本では韓国ブーム（韓流 ハンリューとも称する）で、大変です。切り出しは韓国のテレビドラマ“冬のソナタ”で、男優のヨン様は宛ら中年のおば様族に垂涎的に成っています。ドラマの登場人物は皆、背が高く美男美女ですが、現実を知っている小生には、チト、ピンと来ません。又、男尊女卑のお国柄故、あれ程男子が優しいとはドラマの中と言えども、到底理解出来ません。しかし、一度女性が結婚し、子供を産み育てて行くと、俄に形勢が変わりオンマ（母親）は強い力を発揮し、家・家庭を束ねて行きます。

“冬のソナタ”は既にテレビで終わりましたが、今、小生が毎週木曜日夜に欠かさずに楽しんで見ているのは、“大長今 デイチャングム”です。朝鮮の中宗時代の宮廷に仕える女官(後で女医官)の実話で、特に、数々の宮廷料理は圧巻です。日本人は韓国と来れば、全て辛い料理のイメージが頭にこびりついていますが、其れは、完全に間違いです。豊臣秀吉以前に朝鮮半島にはそもそも唐辛子は存在していませんでした。朝鮮征伐の折に、日本から持ち込まれ、それ以降に半島で広まった訳です。拠って、辛いキムチも朝鮮半島古来の伝統料理で有りません。本来の伝統料理は宮廷料理なのです。これらには唐辛子は一切無く、誰にでも美味しく食べられます。今は一般的には韓定食に宮廷料理のメニューが数多く載せられています。今度、韓国を訪ねられる際には、焼肉・辛いキムチも良いですが、是非、一度韓定食をお試し下さい。因みに、小生が最高と思う料理はコクチョン・ジョングル（豚の小腸の味噌・ニンニク煮込み鍋）で、一度食べたら病みつきに成ります。

お客と仲間と居酒屋でオジンオ（烏賊の炭火焼き）をソーズ（焼酎）をグビグビ遣っているとアット言う間に時間が経ち、日本に舞い戻りました。其の1年半後には4度目の任地亜国ブエノス・アイレスに遠い日本から舞い降りました。幸い、ボゴタでの経験が有ったので、言葉には初めから不自由は有りませんでした。此処でも、色々有りましたが、未だ時効が成立していない部分も有るので、詳しい事は今は控えたいと思います。しかし、前の会社(大倉商事)が1998年8月に会社が自己破産し、新たに今の会社(片岡物産)の

事務所開設迄の1ヶ月余の出来事は生涯忘れる事の出来ないBIGGEST EVENTでした。
リタイアしてから、亜国の思いで話を破産管財人との遣り取りも含めて、書き下ろして
見たいと思っています。

何れにせよ、何時でも何処でも、人の道に苦楽は付き物ですが、苦を軽くしたり、薄めて
呉れたり、忘れさせて呉れたのは矢張りアミゴでした。又、同時に楽を大きく、明るく、
忘れがたい物にして呉れたのも、矢張りアミゴでした。家庭第一は当たり前ですが、矢張り、
何と言ってもアミゴは人生にメリハリを付けて呉れます。又、特に日本に帰ると自分から積
極的にアミゴとの関係維持をしないと、次第にガタが来るものです。

お互い、努力は必要です。

現在、東京ではオンブ会と楽々会の混成で、20人程の年末の忘年会、又、友好の志で
年3-4回のゴルフを遣っています。又、此れから、日本に帰って来る人（一時帰国を
含めて）、又、再び出稼ぎに行く人の歓送迎会を其の都度、銀座近辺の居酒屋で遣っていま
す。皆さん、夫々に頑張っておられ、逞しい限りで、元気を頂戴致しております。
では、又、お元気で!

“ HOLA AMIGO ! ” の老兵より 中田龍之助 拝

「花便りⅡ」会報電子版2月号へ続く

(なかた たつのすけ：元片岡物産ブエノスアイレス事務所長)

ここのところ日韓はギクシャク。お互い思いこみがあるのかもしれませんが。

”辛い”と思われがちな韓国料理、ルーツは16世紀の日本との歴史に由来とは目から鱗
です。

中田さん감사합니다/カムサハムニダ。